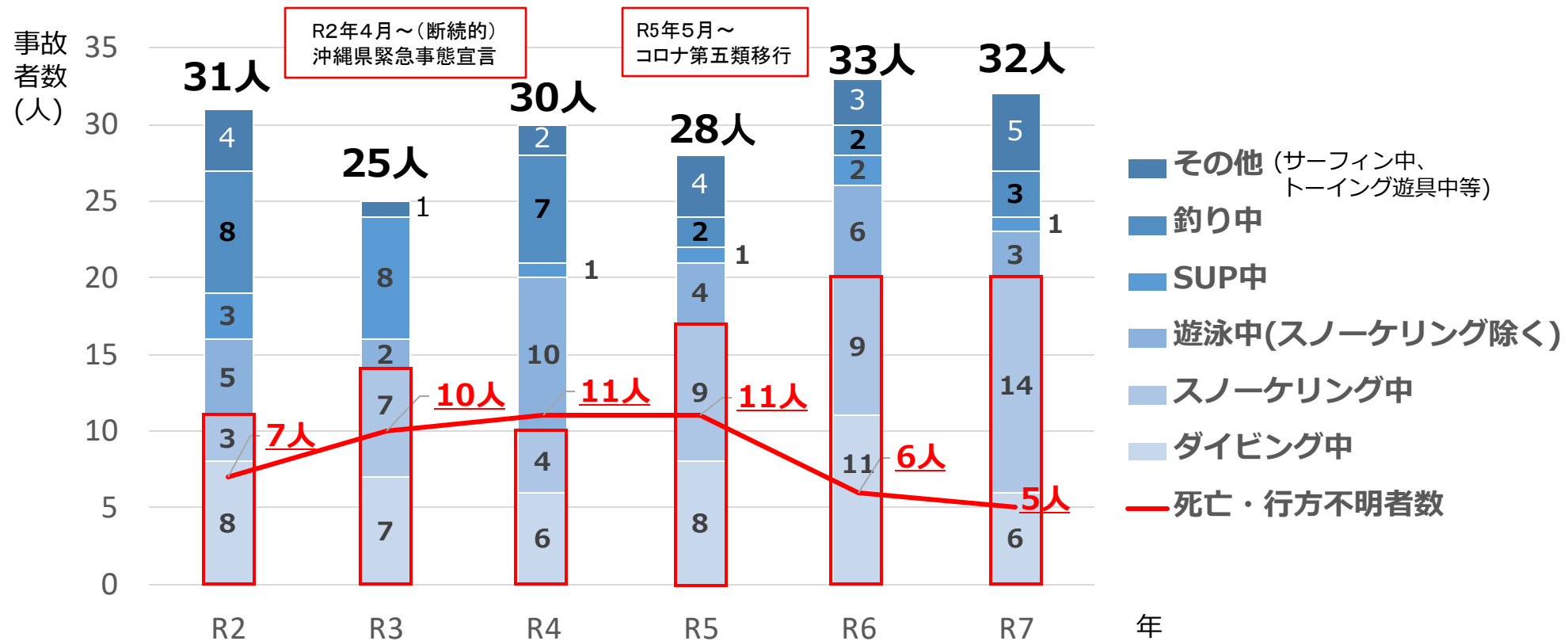


令和7年の那覇海上保安部管内における マリンレジャーに伴う人身事故

令和8年3月



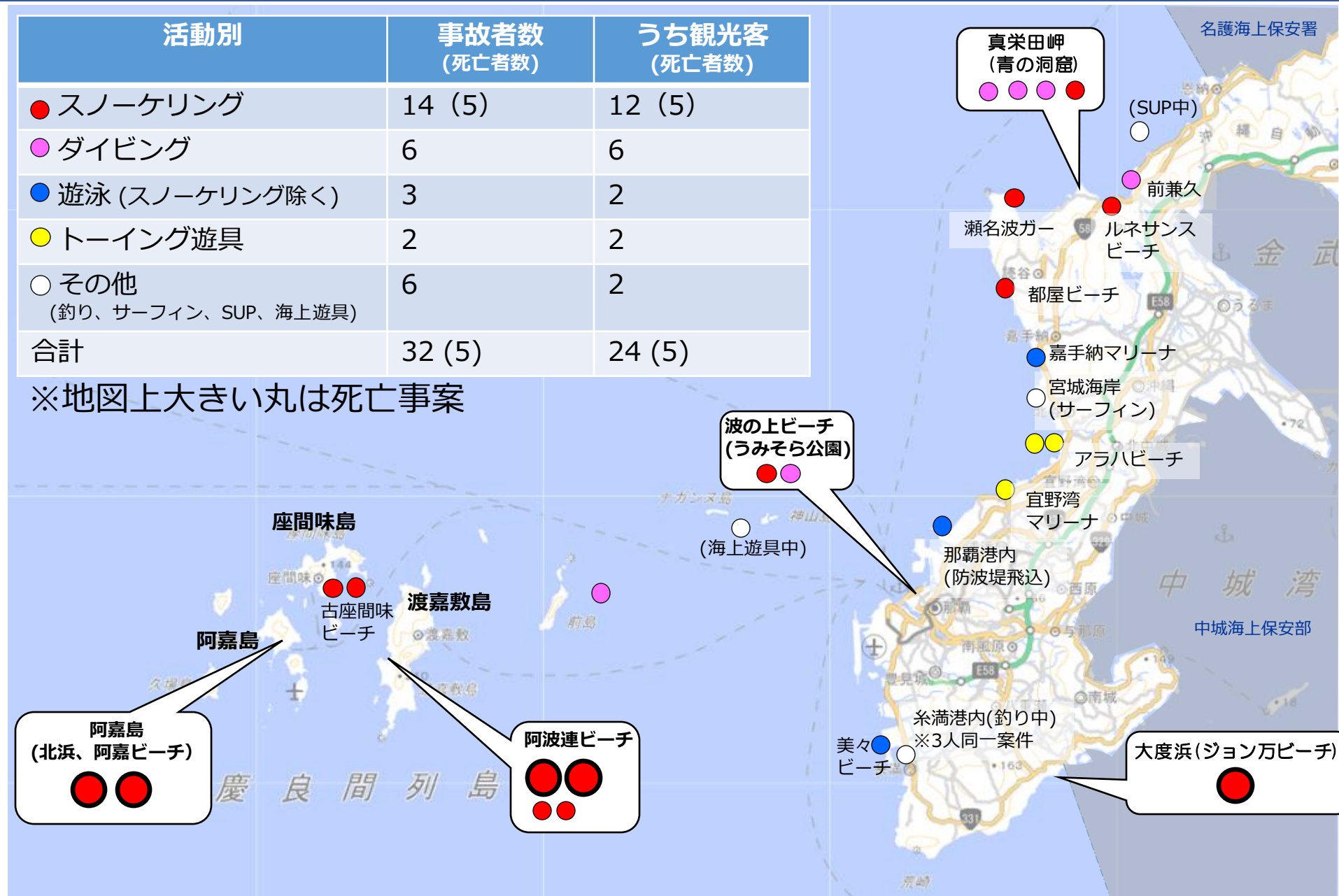


管内の特性

- マリンレジャーに伴う人身事故総数 R7年32人 ※R6年比1人減
うち死亡者数 R7年 5人 ※R6年比1人減 (H25年の那覇部発足以来最小)
- 観光客(県外・海外居住者)による事故が4分の3を占める (R7年 32人中 24人)
- 観光客に人気のアクティビティであるダイビング中、スノーケリング中の事故の割合が高い
- R7年は 死亡者5人のうち4人が慶良間諸島におけるスノーケリング中に亡くなっている

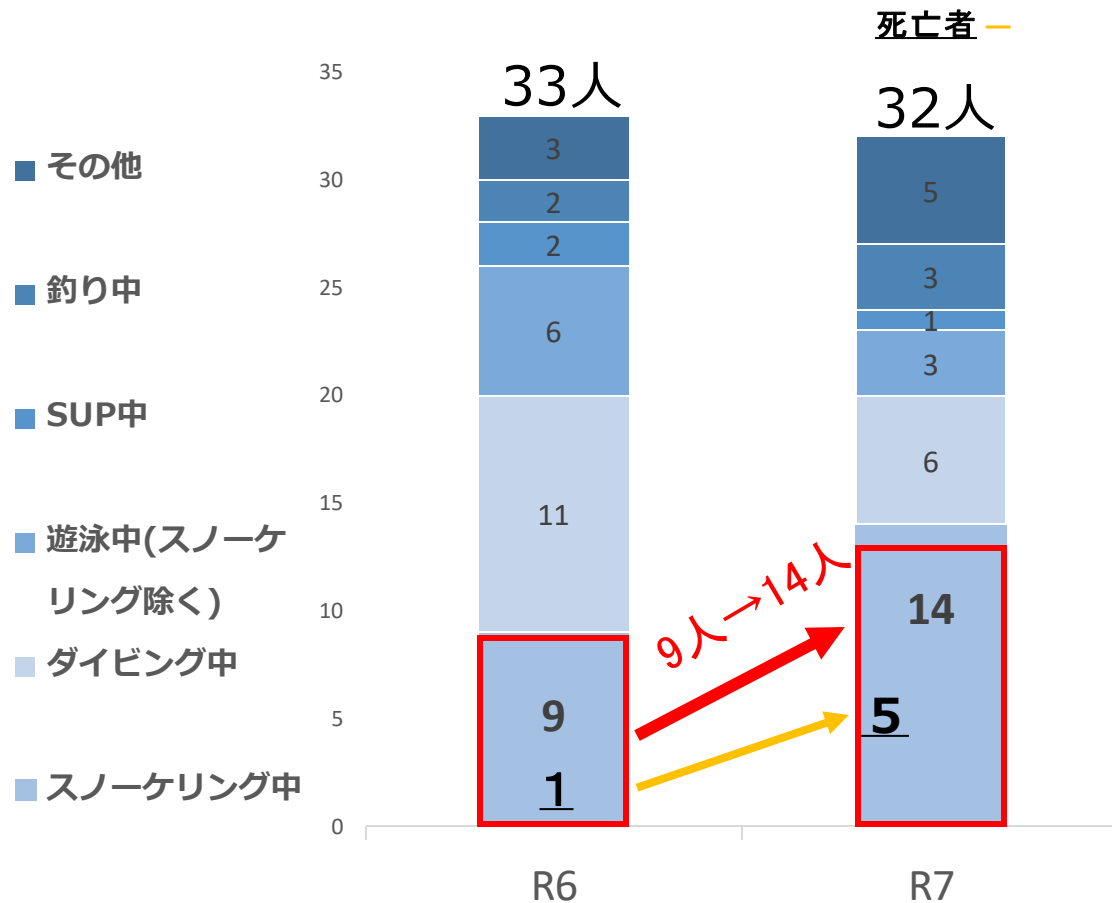
活動別	事故者数 (死亡者数)	うち観光客 (死亡者数)
● スノーケリング	14 (5)	12 (5)
● ダイビング	6	6
● 遊泳 (スノーケリング除く)	3	2
● トーイング遊具	2	2
○ その他 (釣り、サーフィン、SUP、海上遊具)	6	2
合計	32 (5)	24 (5)

※地図上大きい丸は死亡事案

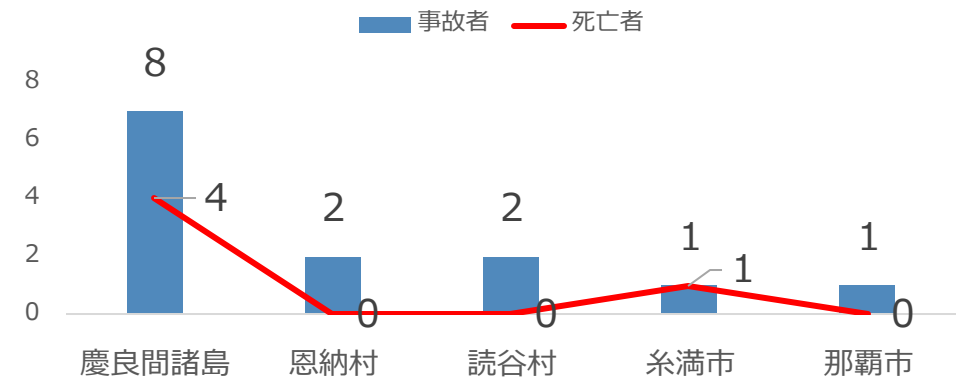


- ① 令和7年スノーケリング中の事故者は14人（前年から**5人増**）、死亡者は5人（前年から**4人増**）となった。
- ② **慶良間諸島での事故が増加（8名、前年から5人増）** また、死亡者のほとんどが慶良間諸島での事故である。
- ③ ライフジャケット着用状況は、14人中7人の**半数**。死亡者にとっては**8割非着用**。

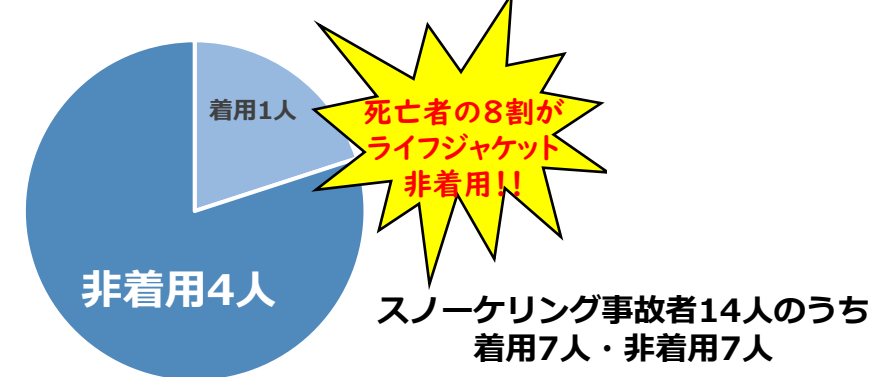
マリレジャー事故（スノーケリング中）前年比



事故発生場所別

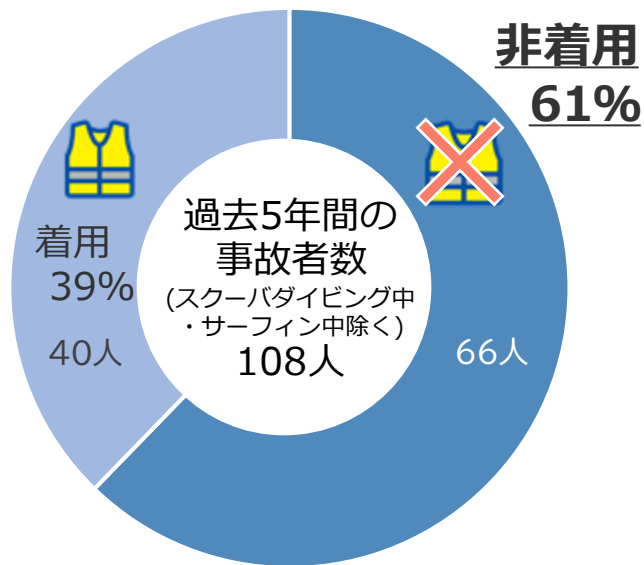


死亡者のライフジャケット着用状況

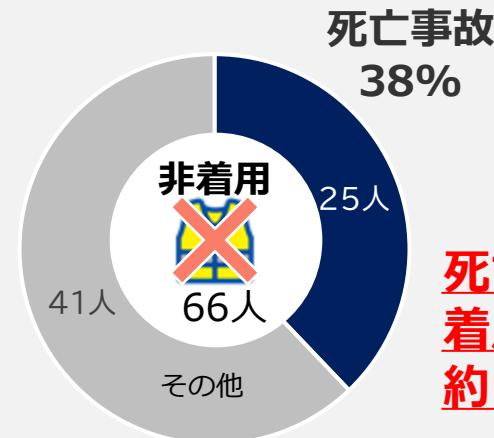
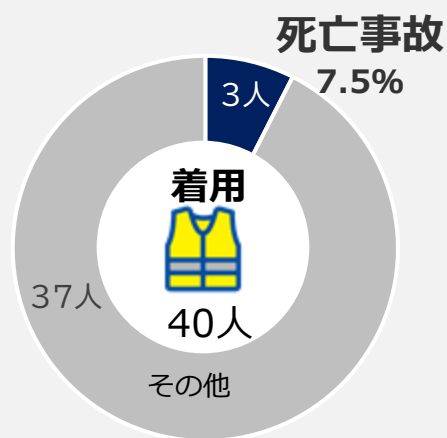


※いずれのグラフもスノーバダイビング中とサーフィン中の事故者は除外

過去5年間 (R3~R7) 那覇管内
マリレ事故者のライフジャケット着用率



ライフジャケット着用有無と死亡事故の割合



死亡事故率は着用者の約5倍

命を守るためライフジャケット着用は非常に有効

⚠ 当部では関係機関と協働しマリレジャー中のライフジャケット着用を強力に推進中



とまりんにおける安全啓発活動

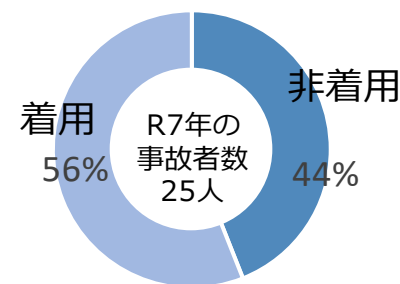


海保・県・県警・OMSB・OCVB共同ポスター

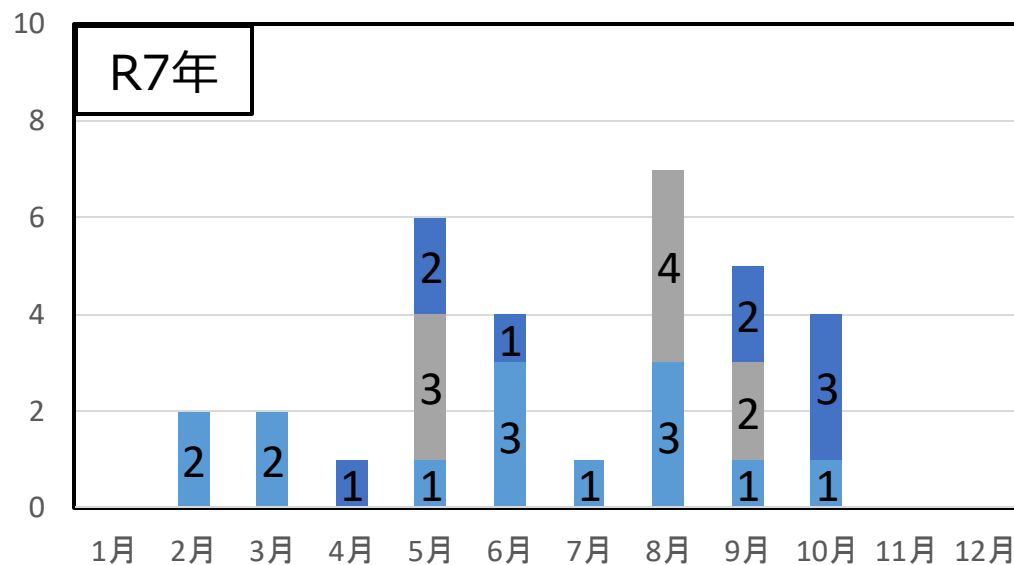


引用：県警HP (参考) 県警ポスター

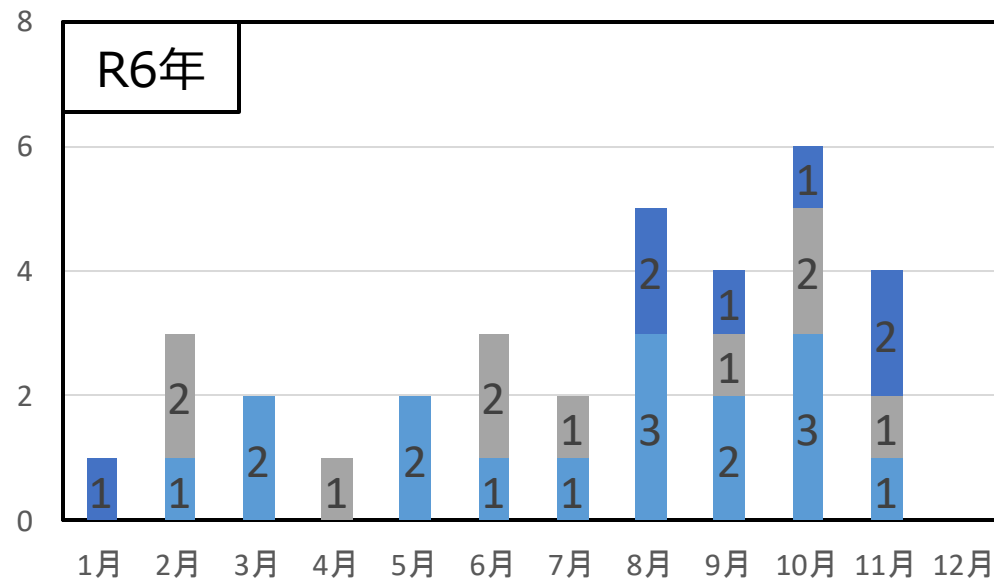
(参考) R7年の那覇管内マリレジャー事故者のライフジャケット着用率



全体では改善傾向がみられるも、死亡事故者 5人中 4人はライフジャケット非着用



■ 県外 ■ 県内 ■ 外国人



年	県内	県外	外国人	合計
R7年 (死者)	9名 (0名)	14名 (4名)	9名 (1名)	32名 (5名)
R6年 (死者)	10名 (2名)	16名 (3名)	7名 (1名)	32名 (6名)

- 前年比で「外国人」の事故者数が**増加**。
- 前年比で「県内」「県外」の事故者数が**減少**。
- 過去7年間のトレンドとしては、**6～10月がハイシーズン**

